15日　月曜

Ⅱサムエル

18:16 ヨアブが角笛を吹き鳴らすと、兵たちはイスラエルを追うのをやめて帰って来た。ヨアブが兵たちを引き止めたからである。
18:17 彼らはアブサロムを取り降ろし、森の中の深い穴に投げ込み、その上に非常に大きな石塚を積み上げた。イスラエルはみな、それぞれ自分の天幕に逃げ帰っていた。
18:18 アブサロムは生きていた間、王の谷に自分のために一本の柱を立てていた。「私の名を覚えてくれる息子が私にはいないから」と言っていたからである。彼はその柱に自分の名をつけていた。それは、アブサロムの記念碑と呼ばれた。今日もそうである。
18:19 ツァドクの子アヒマアツは言った。「私は王のところへ走って行って、【主】が敵の手から王を救って、王のために正しいさばきをされたことを伝えたいのですが。」
18:20 ヨアブは彼に言った。「今日、伝えるのではない。ほかの日に伝えよ。今日は伝えないのがよい。王子が死んだのだから。」
18:21 ヨアブはクシュ人に言った。「行って、あなたの見たことを王に告げよ。」クシュ人はヨアブに礼をして、走り去った。
18:22 ツァドクの子アヒマアツは再びヨアブに言った。「どんなことがあっても、やはり私もクシュ人の後を追って走って行きたいのです。」ヨアブは言った。「わが子よ、なぜ、あなたは走って行きたいのか。知らせに対して、何のほうびも得られないのに。」
18:23 「しかし、どんなことがあっても、走って行きたいのです。」ヨアブは「走って行け」と言った。アヒマアツは低地への道を走って行き、クシュ人を追い越した。

Bible Reference 聖書の記述

アブサロムは外見も美しく多くの人から将来を期待されていました。自分自身もそのつもりで、自分の記録を残す柱を建てていたのですが、それは皮肉にも彼の反逆と敗北を記念するものとなってしまいました。
このように自分自身のために自分を誇る者は、正しい方向からそれて、むしろ恥を見ることになってしまいますから気をつけなければいけません。
アヒアマツにとって今日の勝利は喜びであって、早く王に知らせたいと思いました。しかし死んだアブサロムの父であるダビデ王にとっては悲しみの日であり、それは悪い知らせであったのです。
ものごとには良い面と悪い面とが一体となっている場合もあって、単純ではないのですから、主のみこころをよく知る必要があります。また悪い面をもたらすのは、人間の罪の結果であることも多いのですから、それをも益に変えてくださる主の深い摂理に信頼する必要もあります。
それぞれの使命を、主の摂理に頼りつつ果たしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？